

県政戦略会議の概要

- 1 開催日時：平成18年6月30日（金）9：00～10：50
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 出席者：知事、副知事、出納長、各部局長等
- 4 欠席者：油家環境森林部長、大森観光局長
- 5 議事概要：以下のとおり
（ 議題提出部局説明・回答、 意見・質問）

議題1：みえ経営改善プランの推進について（総務部） 資料1に基づき説明

経済財政諮問会議で5.7%削減が出たということは、これが基本となるということか？

国では、これから、この率でいろいろなものが計算されていくということになる。

県は包括的権限移譲を積極的に進めているが、市町は財政的な支援とともに、専門的知識を持った県職員の人的な支援を期待している。職員を削減しようとする中では、厳しい話である。

県からの市町への派遣は、最初の一定期間は、県が給与を負担して派遣するのもいいが、支援する期間を過ぎたら、いつまでもこのままではいけない。真剣に考えないといけない。

教員や警察官など、県でコントロールできない部分も含めて5.7%削減なのか？

これまでは、知事部局の中で考えていたらよかった。今までの定数削減で総数による削減は、初めてではないか。それだけに、きつい削減を求められている。

三重県でこれまで検討してきた状況では、他府県と比べても、とても持たない。特に今回、経済財政諮問会議で出されるであろう縛りとしての5.7%を踏まえ、しっかりと対応しないといけないと思っている。

現状でも厳しいものであるが、これに向け、それぞれの部署での検討をしっかりと欲しい。

かなり厳しいが、しっかりと成果が出せるよう、皆さんの特段の努力を本日は願います。

議題2：次期戦略計画について（政策部） 資料2に基づき説明

資料2 - 1に関して、目標項目をどの時点で固めることになるのか。

政策・事業体系と合わせて、一旦、7月に固めることとしている。ただし、9月に計画素案に記載する形での公表であり、8月中は見直し可能である。

数値目標に、県民意識基礎調査に替えて一万人アンケートを使うにあたり、設問の見直しが必要ではないか。

一万人アンケートの改善は検討が必要だが、誘導的にならないように、また、時系列比較にも配慮しなければならない。重要なことは、アンケートに基づくメイン指標をサブ指標と組み合わせることによって要因を分析し、PDSに生かしていくことである。

数値目標の設定のための県民意識基礎調査を実施しないことについて、了解を得た。

新重点化施策に関し、重点事業とみえの舞台づくりプログラムの2つの仕組みの違いが分かりにくい。プログラムの方は、これまで検討されてきたものと変わっているのではないか。

重点事業と舞台づくりプログラムの2つとしたのは、性格の違いを分かりやすくするため。舞台づくりプログラムは次の時代に投資するものと位置付けた。資料2 - 3での基本認識もこれまでの発展形と考えている。

資料2 - 5のアウトプットイメージに関し、重点化施策をどの程度記載していくのか。

重点化の2つの仕組みとその考え方についての説明、いわば総論部分までと考えている。

以上